

ハワイの波は南極から

エルニニョという南米ペル 沖の海面異変が日本列島に異常気象をもたらし、ヒマラヤ山脈チベット高原がなければ梅雨はなく、ベンガル湾の入道雲群が梅雨の活発さを招いている。酸性雨の一つのルートが中国大陸にあり、ゴビの砂漠の黄砂がはるか四千キロを旅して日本列島に降る。上空を流れる気流に国境はなく遠く離れた所から身近な気象の出来事に意外な影響をしているのに驚かされる。

海もまた国境はなく、『ハワイの波は南極から（永田豊著 丸薙）』来ているという。確かに太平洋は「繋がり」の大きな海に過ぎず、北半球と南半球をわける赤道も単に地図上の赤い線に過ぎない。三十年ほど前のチリ津波の時も、大地震の震源で発生した津波がはるか太平洋を越えて二万数千里も離れた日本列島に大津波となつて襲来している。地球儀を見ればチリと日本は太平洋を挟んでまさに対岸に位置しているのが納得する。

ハワイのサーフィン向きの大きな波が南極海起源でも決して不思議ではない。ハワイからニュージーランドの線上で波を測つて、この高波のルートが南極海から赤道超えてはるばる七千里の旅をしてきたウネリだったことが突き止められている。はるか南方洋上の台風から発

して日本列島に押し寄せる土用波ともウネリ仲間と同じもの。

ハワイの夏は南半球では冬の季節、「吠える南緯四十度の暴風圏」で有名な低気圧の墓場では、来る日も来る日も激しい嵐が吹き荒れて、風浪がウネリとなつて北へ北へと向かつて次々に送り出されている。チリ津波が対岸の日本に襲来「梅雨はヒマラヤ、ベンガル湾から」そして「ハワイの波は南極から」と言った具合に、地球儀規模で見知らぬ遠い国からの来客に思いをよせて梅雨の暑氣払いをしてはいけがなものだろうか。